

ABA 関西勉強会・工場見学会

近藤 旭*

1. はじめに ～背景～

「アルミニウム合金材料工場塗装工業会」（以下、「ABA」と記す）はアルミニウム合金材料の塗装仕上げにおける品質の確保と環境安全への配慮を目的として2014年1月に創立し、昨年は10周年を迎えた。その間、創立時30社（正会員19社、賛助会員11社）だった会員企業は38社（正会員21社、賛助会員16社）に増えた。当初からの主な目的としてアルミニウム合金材料に対する塗装品質の確保と向上や地球環境の保全と健康安全に配慮した塗装仕様の普及展開があり、これまで首都圏はもちろんのこと、全国主要都市で年に1～2回のペースで会員企業や、設計監理・ゼネコン・サブコン・建材メーカーなど塗装に関わる企業向けに勉強会を実施してきた。また、建材に関する展示会にも過去何度も出展をしている。更に最近では積極的に会員企業の若手を含めた工場見学を実施したり、工場塗装管理技術者という資格認定制度を創設し、会員企業の人材の意識や知識の向上を促してきた。

今年は様々な事情もあり、展示会出展こそ実施しなかったが、若手向け勉強会（本年10月初旬、静岡のアルミ合金押出型材製造・組立や屋外暴露場の見学）を実施した。更に、会員企業のみならず、関連企業にも呼び掛けた勉強会を創立以来初の大阪にて実施した。なお、関西地区では兵庫県姫路市において、2019年7月に実施しており、今回が関西地区として2回目の実施になる。また会場は大阪市の中でも近年開発が目白押しの大阪北ヤード＝うめきた地区内に2024年9月に先行オープンしたグラングリーン大阪北館にあるJAMBASEという貸カンファレンス会場を使用した。

ABAでは前述の設立目的より、創立以来、環境配慮型塗装仕様そしてVOC削減や脱クロムに焦点を当てた日本建築仕上学会編「建築用アルミニウム合金材料 加熱硬化形溶剤系塗装仕様標準書・同解説」及び「建築用アルミニウム合金材料 粉体塗装仕様標準指針」を主要テーマにした勉強会が多かった。しかし勉強会冒頭、当会会長の宮越（宮越工芸（株）代表、写真1）が述べたように、世間では脱炭素（カーボンニュートラル）やGX（グリーントランスフォーメーション）に世間の注目が映ってきた。ゆえに我々ABAとしては、これらと塗料・塗装を掛け合わせた勉強会テーマが増やさざるを得なくなってきたことは事実である。



写真1 開会挨拶の宮越会長

2. 勉強会テーマとそれらの主な内容

(1) 環境保全への取組み—SDGs からカーボンニュートラルへ—

ものづくり大学名誉教授 近藤照夫先生（写真2）

最初の講演者は建材における工場塗装に関する研究の第一人者であり、当会顧問である近藤先生。ABAの活動とリンクしている日本建築仕上学会研究委員会活動の研究成果である「加熱硬化形溶剤系塗装標準仕様書・同解説」、「粉体塗装仕様標準指針・同解説」の紹介、全国各地で実施した様々な塗装仕様（従来のク



写真2 近藤先生

* アルミニウム合金材料工場塗装工業会（ABA） 専務理事
（（株）マルシン代表取締役）

ロム処理した溶剤系塗装仕様とクロムフリー処理や粉体塗料など環境対応型塗装仕様)の比較実験データを披露して頂いた。また日本建築仕上学会内での取り組みとして、ゼネコン・建材メーカー・塗料/薬剤などの材料メーカー・塗装業者と学会の研究者などの利害関係者が果たさなければならないSDGsの観点での役割を教唆してくれた。またカーボンニュートラルに対する私見を披露頂いた。

(2) ESG と脱炭素～持続可能な環境貢献と事業成長～

関西ペイント(株) 日本汎用事業部門工業塗料本部
カンペ商事(株) 石井浩一郎先生(写真3)

昨年福岡においてもABA主催にて勉強会を実施しているが、その際も講師として登壇頂いた。当時は関西ペイントで数年前に立ち上がった新規事業部である市場開発Gに所属し、今回はカンペ商事取締役役に出向となった石井先生。前回の講演内容に最新の情報をプラスして講演頂いた内容は、前回より更に熱をおびていた。それもそのはず、少しずつ明らかになった炭素税に代表される日本版の脱炭素規制。間近に迫った2030年でのCO₂削減目標は2013年度比で46%減、そして2050年でのカーボンニュートラル、つまり100%削減目標は我々中小企業にも多大な影響を及ぼすからである。脱炭素に必要とされる財源は150兆円にもものぼるとされ、政府はそのうちの20兆円をGX債権によって調達予定であり、その償還財源は2028年度より課税される炭素賦課金。日本を代表する有名な優良な大企業法人でさえ、現在議論されている通りに法案が可決すれば赤字に転落するほどのインパクトがあるといわれる税負担になるようである。我々中小企業も対岸の火事ではなく、取引している大企業からのCO₂削減要求は必至。太陽光パネルの設置など、今のうち準備に取り組む必要性を感じる内容であった。また講演終盤に提案があった関西ペイントの環境対応のウレタン塗料は聴講者からも質問が相次ぐなど、大きな関心があった。



写真3 石井先生

(3) CO₂ 排出削減の考え方

(一社)国際工業塗装高度化推進会議(IPCO)

理事長 高橋大先生(写真4)

3つ目の講演は、弊会の賛助会員の1社である(株)三王代表の高橋社長。塗料販売を元々の生業として創業しながら、小口を中心に粉体製造メーカーとしての顔を持つ高橋先生はパウダー協の理事も務めており、この業界を引っ張るリーダーの一人。そして自身が理事長を務めるIPCOの活動内容の報告とCO₂排出へのヒントを頂いた。IPCOの活動テーマの一つは「工業塗装産業が、いかにモノづくり産業すべてに対し必要不可欠で、かつ大きな役割を担っている基盤技術であるかについて、その社会的認知度向上を目指して塗装技術の有効性を積極的に社会に発信し、正しい認識を持っていただくこと」である。その中で、塗料の「製」(製造)「販」(販売)「装」(塗装)「機」(機械)の企業が一丸とならなくては、行政や世間にその重要性を理解してもらえない、と説いた。更に日本塗料工業会とCEMA、工塗連が加わって活動を始めたコーティングコンソーシアムCoCo。そこで得たアンケートと見識から生まれたのが、先般世に公表した、「工業塗装CO₂排出削減チェックリスト」と「工業塗装CO₂排出削減ガイドンスブック」である。勉強会ではこれらの紹介と利用方法についてご教示頂いた。業界外には認知の向上を、業界内には自信と誇りを醸成するし、積極的に行政の窓口となって先進事業に取り組む姿は我々ABAも見習わざるを得ない。

(4) エア漏れ検査サービス

協和機工(株) 代表取締役 三家本輝男先生
(写真5)

最後の講演は、我々正会員企業のような塗装工場を持つ企業にとっては脱炭素やコスト削減に直結する内容であった。協和機工はとび・土木工事業、鋼構造物工事業、塗装工事業、機械器具設置工の免許を持つ山口県の企業であり、主に石油・化学プラントのメンテナンスを手掛けるが、一般工場の省エネ化と効率化の支援事業も行っている。IPCOにも加盟し、また北九



写真4 高橋先生



写真5 三家本先生

州 GX 推進コンソーシアムなどにも参画、取組を内外へ発信することも熱心な企業である。エアやガスそして電気の「見える化」により昨今の脱炭素への取り組みを助けてくれる、非常に実践的な講演内容であった。

3. 工場見学会

工場塗装に関連し、SDGs や GX に熱心な企業だったり、製造されている製品が環境にやさしいを企業を見学したい、というテーマで下記の2社を見学した。

(1) KANSAI パウダーコーティングス (株) 兵庫工場 (写真6)

大阪を朝早くバスで発ち、兵庫県朝来市に。朝来市は地理的には兵庫県の中心であるが市のほとんどが山林で囲まれた街である。また近年では「天空の城」として観光客が多くやってくる竹田城跡がある。それがゆえに見学地まで行く道中はバスで通れるのかな、という道も存在。こう言っでは失礼だが、働くにはかなり厳しい場所だな、と感じた。経営目線で見ると「人集めが大変だな」となるのだろう。

2時間ほどしてようやく工場についたが、これまた失礼に当たるが、海外粉体メーカーの海外工場も何度

か見学したことがある筆者としては正直、国内の2大塗料メーカーの一角である関西ペイントグループの粉体事業をほぼこ一手で引き受けている工場としては小さいなという印象。しかしながら、昼夜問わずの3交代作業により生産体制を確保、そして中でも高い品質を効率性高い導線でもって作業を進められていることに感銘を受けた。冒頭の交通の便にもかかわらず、人材がそれだけいるのは工場の働きやすさなどがあるであろうと推測する。また来年には赤穂市に新しい工場を作り、生産体制を最終的に2倍程度まで引き上げるようである。また来年以降に新工場を見学をしたい。

(2) グローリープロダクツ (株) 本社・福崎工場 (写真7)

昼食を上述の KANSAI パウダーコーティングスで頂き、その後向かった先は、グローリープロダクツ本社・福崎工場。グローリープロダクツは、上場企業であるグローリー (株) を中核ホールディング企業とするグループの製造子会社である。1951 年に昭和塗装整備 (株) として姫路市御着に設立し、様々なグループの再編を経て、2010 年に元々あった福崎工場に本社を移転した。その製造物は主に硬貨・紙幣を扱う銀行の ATM や各種の無人販売機等、または小売り向けのレジの製造で、部品加工から塗装・組立までを一貫して生産する体制を保有してるのが強みだとのこと (注: 一部外注製品あり)。通貨処理機、情報処理機、自動販売機、カードシステム、レジなどのサービス機器などを高い技術力、充実の設備で製造している様子を伺い知れた。扱っている製品が決して大きくないこともあるが、我々になじみのある比較的大きな塗料や機械、乾燥炉も置いてあり、塗装製造工程は非常に工場内にコンパクトにまとまったラインがそれぞれの製造品種に対し数多くあって感心した。小さい部品が多いことも女性が多かった理由であろうが、女性にも優しい働き方、そして製造過程においても無理のない姿勢で生産できるよう椅子や移動道具などを自作するなど、高いアイデア・創造力がある企業であると思った。



写真6 KANSAI パウダーコーティングス (株) 兵庫工場



写真7 グローリープロダクツ (株) 本社・福崎工場

4. おわりに

人間でいうと10歳を越したABAであるが、その人脈や存在は業界の様々な企業・団体に広がっていたことを最近では実感する。それがゆえに社会的に責任があり、日々新しいかつ深い情報を会員企業に発信し、会員企業同士が切磋琢磨して今まで以上に社会に貢献しなくてはならなくなっている。そして外部の方には我々の活動をより知ってもらう必要がある。より大変な作業だが、ただ、それこそが持続可能な塗装社会に

つながると思う。

最後になるが、この勉強会に企画段階で尽力いただいた当会会長の宮越会長および戸崎理事、そして登壇頂いた講演者の先生方、参加された会員・非会員の皆様、視察先の企業の方々、そして勉強会・見学会に参加し、この紙面でABAの活動報告の機会も与えて頂いたパウダー協の事務局である立花理事にこの場をお借りしてお礼申し上げます。

On demand powder coatings

conall®

コナール

環境にやさしい、小ロット短納期、オンデマンドオーダー粉体塗料・コナール

- 1 ケース **5kg** からの指定色を製造※
- ご希望の色を忠実に再現
- 鮮鋭性・平滑性にすぐれ、美しい仕上がり
- 短納期

用途に応じた、豊富なラインナップ

標準タイプ	スーパーコナール	FL フッ素	屋外用最高級グレード。最高ランクの耐候性を有するフッ素樹脂粉体塗料です。
	ハイパーコナール	FH フッ素ポリエステル	屋外用高級グレード。フッ素樹脂を使いコストパフォーマンスに優れた中間グレード。
	コナール	PK 高耐候ポリエステル	1 ランク上の屋外用。耐候性と付着性のバランスが取れた使いやすい粉体塗料です。
		PU ポリエステル	一般屋外用。平滑性に優れ艶有から 3 分艶有まで調整可能です。
		PH ポリエステル	一般屋外用低温型、160℃×20 分での焼付が可能です。焼付時にヤニが出ません。
		HT エポキシポリエステル	一般屋内用。強靱で鮮鋭性に優れた塗膜です。
		HL エポキシポリエステル	一般屋内用低温型、150℃×20 分での焼付が可能です。
意匠性タイプ	コナール	ウェーブ	意匠性凹凸模様。溶剤系では表現できない立体的な模様で、重厚感と高級感を演出します。
		メタリック	ボンディングタイプ。溶剤系とは違うメタリックで重厚感と高級感を演出し、塗装も容易です。
		スリックスエード	新たな色彩表現となめらかな感触で商品に新しい可能性を開きます。
	コナールトーン	ハンマートーン	ハンマートーン模様。溶剤系でも長く親しまれてきたハンマートーンです。模様再現性は溶剤に比較して容易です。
		リンクルトーン	リンクル模様。縮み、チリメン、リンクルなど溶剤系でも様々な名称で親しまれてきました。粉体の模様は溶剤と比較して緻密で均一になります。
		スネークトーン	スネーク模様。リンクルトーンに似ていますが、まさに蛇革です。色を工夫することで斬新なイメージを与えることができます。
		アンティークトーン	アンティーク模様。粉体塗料独特の模様です。アンティーク、バンビー、フラッシュトーン、ハンマートンなど様々な呼称で呼ばれています。
		キャンディトーン	カラークリヤー。発色・塗装作業性だけでなく塗膜性能にもこだわり、今までのカラークリヤーを凌駕します。
		テラトーン	テラコッタ調模様。南欧素焼風の模様も粉体塗料であれば 1 コートで再現できます。
	チョコナ	各種	ペットボトル入粉体塗料。即日出荷の 100 色カラーバリエーション。粉体塗料をより多くの人に、より多くのものに。1 本 330gx2 本入りでオンラインショップにて販売中。

※ コナールトーンなど一部の塗料を除きます。詳しくはお問い合わせください。

- 樹脂により艶の調整範囲が異なります。詳しくはお問い合わせください。
- 模様系塗料は、塗装設備・機器の種類、膜厚、焼付条件などで模様の状態が変化することがあります。
- メタリックは、塗装機器の種類、膜厚等により輝度やメタリック感が変わる場合があります。
- キャンディトーンは下地が透ける塗料ですので、下地の状態や膜厚により表情が変わります。



塗料・塗装資材の総合商社
小ロット溶剤調色
小ロット粉体製造
塗装機器・設備のコーディネート

化学で人と自然の共生する明日へ



株式会社 三 王 粉体事業所
埼玉県草加市弁天 4-17-18
TEL: 048-931-2001
FAX: 048-931-2141
www.san-oh-web.co.jp
info@san-oh-web.co.jp

快適と信頼が
私たちの商品です。

表面処理の総合商社…



株式会社 **板通**

<http://www.itatsu.co.jp>

本社 〒326-0802 栃木県足利市旭町 553 TEL 0284(41)8181 FAX 0284(41)1250

本部 〒373-0015 群馬県太田市東新町 330 TEL 0276(25)8131 FAX 0276(25)8179

両毛支店/埼玉支店/高崎支店/小山支店/宇都宮支店/水戸支店/東北営業所

フィリピン/タイ/インドネシア/中国

横浜化成株式会社

本 社 ☎108-8388 東京都港区高輪2丁目21番43号 ☎03(5421)8266(大代)
大 阪 支 店 ☎530-0047 大阪市北区西天満5丁目1番9号 ☎06(6364)4981 (代)
千 葉 支 店 ☎263-0001 千葉市稲毛区長沼原町804番地 ☎043(259)2311 (代)
静 岡 営 業 所 ☎422-8067 静岡駿河区南町13番3号(TKビル) ☎054(282)5366 (代)

地球に優しい環境型塗装技術はこれからの優先課題です！！

地球環境に優しい次世代の塗装法 Powder Coating (粉体塗装)

「長さ 17.5m」「重量2.0t」最先端の生産環境におまかせください。

妥協を許さない信念で、高品質を保ち保ち続けます。

株式会社 明希

代表取締役会長 新井 かおる (薫) 代表取締役社長 新井 裕喜

〒675-1202 兵庫県加古川市八幡町野村字蟹草 616-44

TEL 079-438-2737 (代) FAX 079-438-2771 (代)

HP:<http://www.e-orca.net/~meiki/> Email:meiki_qa@e-orca.net



城南コーティング株式会社

樹脂からマグネシウムまでをラインシステム化した多量生産方式を採用

新素材をコーティングする

粉体塗装

電着塗装

溶剤塗装

本社	〒142-0063	東京都品川区荏原 6-17-16	☎03(3787)0711(代)
上里工場	〒369-0315	埼玉県児玉郡上里町大字大御堂字長久保1450の37	☎0495(34)0801(代)
児玉工場	〒367-0206	埼玉県本庄市児玉町共栄 800-9	☎0495(72)6191(代)

ISO 9001・14001 登録企業

アックでは、塗料・塗装方法・設備・機器の提供はもちろん、塗料専門商社としての経験と知識を活かして、皆様が抱える問題に対し、環境時代に最適な「アイデア」を提案します。

環境時代が求める
エコロジカル・
ペインティングへ



お客様に「信頼と満足」を

株式会社アック

www.a-c-c.co.jp

本社/名古屋市港区十一屋2-12 〒455-0831 TEL(052)381-5599

名古屋・小牧・三河・豊川・弥富・浜松・いわき・山口・東京

塗装会社が、
風土改革コンサル
はじめましたw！

自主的**考動**を育む製造業による働きがい改革

『T-CX』

ツツイ式 企業風土
トランスフォーメーション

自主的に考動できない…

連携できない…

やらされ感…、他人事…

離職が多い…、採用できない…



SDGs、DX、働き方改革をスムーズに運用する為には…

【自主的考動を育むアプローチ】が有効です。

聴く

問う

伝える

待つ

【お客様の声】

- ・社員だけに変化を強いていたことに気づいた。
- ・コーチがいることで実践できるようになった。
- ・ストレス無く、充実した経営ができるようになりました。
- ・家族との関係性も劇的に改善出来ました。

詳しくはT-CXチラシへ！



働きがい改革とわくわくSDGsと粉体塗装のバイオニア

筒井工業株式会社

素材の付加価値を向上する

地球にやさしい粉体塗料

V-PET
Series

高意匠性シリーズ 特殊模様粉体塗料

エポキシ/ポリエステル系

V-PET 特殊模様 サテン

落ち着いた高級感あるサテン調仕上げ

エポキシ/ポリエステル系

V-PET 特殊模様 リンクル

立体的な3分つやからグロスの凸凹模様仕上げ

パウダーフロンシリーズ ふっ素粉体塗料

ふっ素樹脂系

パウダーフロンCW

3分つや〜フルグロスまで光沢調整が可能

ふっ素樹脂系

パウダーフロンSELA

ふっ素樹脂とポリエステル樹脂の二層分離形

…彩りに優しさをそえて…
未来へつなぐ

DNT
DAI NIPPON TORYO

大日本塗料株式会社

お問い合わせは—
●大阪 ☎06-6266-3134 ●東京 ☎03-5710-4505
●小牧 ☎0568-76-5578 <https://www.dnt.co.jp/>
塗料相談室フリーダイヤル 0120-98-1716

粉体塗装のパイオニア。



独自のパルス制御で美しい仕上がりへ

新製品

Pulse Power 9000 シリーズ



Pulse Power9000S
塗料タンクモデル



Pulse Power9000TS
2丁取塗料タンクモデル



Pulse Power9000B
塗料箱モデル



Pulse Power9000TB
2丁取塗料箱モデル

東京営業 : 03-3278-4800
北関東営業所 : 028-662-7641

名古屋営業所 : 052-823-1751
大阪営業所 : 06-6386-6132

北陸出張所 : 0766-26-5131
九州営業所 : 093-631-7464



<2026 年新年賀詞交換を開催いたしました。>

日本パウダーコーティング協同組合事務局 立花敏行

本年も 2026 年の新年を迎え日本パウダーコーティング協同組合の新年賀詞交歓会を下記の様に開催致しました。

開催日時：2026 年 1 月 23 日(金) 16:00～18:00

開催場所：第一ホテル東京（新橋）地下 1 階 世界バイキング「エトワール」

2023 年の新年賀詞交歓会より、それまで開催していたメルパルク東京の閉鎖に伴い、第一ホテル東京 21 階の「ルミエール」の間に会場を移していますが、本年は 10 月に同ホテルより予定日に洗面所の改修工事が急遽計画され、当初は利用者を 21 階より 5 階の洗面所に案内することで了承願いたい、との申し入れを受けました。

開催時期も迫っていたため、新たに手配することはかなりハードルが高いことより、代替案の提示を求めました。しかしながら、宴会場は既に予約で満室であり予約済みの会場しかない状態でした。ホテル側よりの代替案は、2 階にあるメインダイニングのフレンチ レストラン「アンシヤンテ」の個室を理事会会場として使用し、新年賀詞交歓会は上記の世界バイキング「エトワール」開催するというイレギュラーな開催となり不安もありましたが、何とか開催することができました。

まず、私が司会として開会を宣言し、当組合を代表し理事長の挨拶となるところでしたが、あいにく理事長が体調を崩されたので、急遽 前島副理事長による年頭のご挨拶となりました。

前島副理事長からは、2026 年は風の時代と言われているが、粉体塗装関係は割合と追い風で需給としてはタイトになって来ている一方、粉体塗料メーカーの新工場や増設など明るい情報もある。設備的には、ロボットに AI が実装され、より人間来旨動きをするようになってきていると聞く。塗装機器メーカーの技術革新による自動化の可能性が今以上に進み、塗装業の課題のひとつでもある人材不足にも寄与し、粉体塗装への移行が進み業界の発展が見込める年と期待できるとされました。また、前島副理事長の個人目標として、愛知県の地で「ものづくり働きがいサミット」を開催の計画をしていることの披露もありました。最後に風の時代において、皆様方、皆様方の組織、パウダーコーティング業界がもっともっと前進できる良い風が吹くこと記念して挨拶を終えられました。



組合挨拶 前島副理事長

また、新年のご多忙中にもかかわらず、ご来賓として 16 名の方々にお越しいただきましたこと感謝申し上げます。

ご来賓を代表し、経済産業省 製造産業局 素材産業課 課長補佐の蝶野雅敏様に新年の挨拶を頂戴しました。

最初に、昨年は米国トランプ政権のみならず他の各国も自国優先の新たな国際秩序の動きが見えてきた年であったと振り返られました。

国内は、賃上げ、国内投資等により 30 年ぶりに高水準となり、名目 GDP 60 兆円を超えるという明るいニュースもありながら、人口減少、少子高齢化が直近の構造課題であるとの指摘もされました。

こうした中で、経済産業省としては、民間企業と足並みをそろえ、官民で投資を支える必要があるとされ、塗料を含むマテリアルは成長戦略の重点 17 分野のひとつと位置付けられている。GX、DX、AI などの投資も含め経済産業省としては施策を検討し、競争力の強化、産業の発展に寄与できればとされ、出席者の健勝と発展を祈念され挨拶締められました。



来賓挨拶 経済産業省 蝶野課長補佐様



乾杯 高橋理事

歓談に入る前に高橋理事（IPC0 理事長）に挨拶との乾杯の発声により乾杯をお願いしました。

挨拶では、新春浅草歌舞伎のパンフレットに関してのエピソードに触れ、歴史ある歌舞伎のパンフレットも現代風の韓流スターの様な写真が掲載されていたことに変化を感じたお話を交え、粉体塗装業界も変化をしていく、変化を楽しむ時期に今年はあるとし、皆さんの企業の発展、ご健勝を祈念され、高橋理事の発声で参加者も乾杯を唱和いたしました。

その後歓談時間に入りました。歓談は参加者が新年の挨拶や情報交換と大変盛り上がり盛況であったと考えます。



高橋理事 中締め

最後に中締めを高橋理事（工塗連会長）により行って行いただきました。

まず、挨拶として組合挨拶を冒頭に行った前島副理事長の言葉の 2026 年は風の時代であり粉体塗装関係は追い風であるというお話を引用され、参集の皆様がこの追い風に乗る粉体塗装をより一層盛り上げていけるよう、皆様の企業の繁栄と健勝を祈念して一本締めで中締めとされました。

本年の賀詞交歓会は、会場の変更等段取り面としては不安要素はありましたが、参加者も事務局を含めメンバーも含めて 64 名の参加となりました。コロナ禍後、新年賀詞交歓会を再開してから最高の参加人数となりました。ご出席賜りました方々のご協力の賜物と感謝申し上げます。

本年も引き続き、ご支援並びにご指導・ご鞭撻賜りますようよろしくお願いいたします。

以上

東京支部工場見学会に参加して

当組合東京支部が企画致しました工場見学会に参加しましたので報告いたします。

<見学会の内容>

実施日程：2025 年 10 月 23 日（木）

見学工場：プラス株式会社 前橋工場

当組合会員である株式会社 板通様のご配慮とご調整を賜り上記の工場に手見学会を実施致しました。工場見学の参加人数は約 20 名、見学後に行われた懇親会及び翌日には親睦ゴルフも開催されました。

一般的に塗装工場は企業によりラインは種々の工夫がされているため、限られた部分の見学となる場合が多いのですが、同社は常に発展・工夫を重ねておられ、現時点の工場として全てをお見せいただき、写真撮影も自由という異例の対応でした。

同社のご配慮には感謝いたしたいと思います。

ありがとうございました。

では見学の内容を以下に紹介いたします。

まず、会議室にて工場のコンセプト等概略をご説明いただいた後に工場見学をさせていただきました。敷地全体は産業複合施設「プラスランド」として生産・物流・事務・厚生などの施設が約 14 万坪の広大な敷地の自然を生かして配置されていて森の中の工場でした。

広大な敷地の自然を生かした植栽の維持管理には 2 名の方がその業務をされているそうです。



<プラスランド内施設>

- ① 物流センター:3,000 坪
- ② センターファクトリー:5,800 坪 金属製家具の生産
- ③ 塗装ファクトリー:2,800 坪 塗装工場
- ④ 事務棟:600 坪 オフィス・カフェテリア
- ⑤ アトリエ ファクトリー:3,800 坪 木製家具、パネル、ホワイトボードの生産
- ⑥ 音羽倶楽部:1,400 坪 レストラン・宿泊・研修
- ⑦ ヘリポート

まず、会議室に案内いただき、プラスランドの概要やコンセプトなどをご説明いただきました。
 今回の見学コースでは②センターファクトリー、③塗装ファクトリー、④事務棟、⑤アトリエ ファクトリーを職員の方にご説明いただきながら巡る見学でした。



前橋工場の事前説明

<センターファクトリー>



センターファクトリー外観



温かみのあるおもてなし

外観の写真を撮影できていなかったのでHPの写真を借用。
 工場名に入るとまず手書きの温かみを感じる Welcome メッセージが出迎えてくれました。
 センターファクトリーでは、デスク・キャビネット・収納庫等のスチール家具を生産されていて板金工程や軽量化のための紙のハニカム構造材料の実装や布貼り付けなど結構手作業が多いと感じました。



板金工程



パーツ取り付け



板金工場



現場にあった個人の宣言

また、現場のホワイトボードにはそれぞれのその日の行動を宣言したカードが貼られ、全員が宣言を一目で見てそれを共有できる工夫もされていました。同工場では社内の改善提案活動も盛んにおこなわれているようで、カフェテリアにファイルが設置されていてこれも共有されていました。

板金組み立ての完了した塗装される製品は、塗装ファクトリーに搬送されます。

＜塗装ファクトリー＞



2daito

塗装は粉体塗装のみで大きなブースや供給装置、回収装置など配置されていました。

また、ワークサイズが一定でないため、粉体塗装ガンも数が多くレシプロケーターのアームも前後に駆動し、ワークとのガン距離を調整やレシプロ自体も横移動できるようになっていたと記憶しています。

同工場では受注生産方式を採用されており、納期に柔軟に対応されている点もこの塗装方式を採用されているポイントだと感じました。一点気になったのは、回収廃粉がフレコンに入れてあるのが目につきました。配布の産廃処理についても継続的に会員の皆様に情報提供したいと思います。

＜事務棟＞

事務所は、壁や仕切りを最小限に配置しワンフロアに複数のセクションがデスクを並べ、仕切りの無い配置がコミュニケーションに寄与していると感じました。

また、以下のイラストのようなコミュニケーションスペースを所々に設けコーヒブレイクを取りながら打ち合わせ等ができるよう配慮されていました。写真撮り忘れたのでここもHPから画像を拝借。



社内コミュニケーションの活性化のスペース提案

＜アトリエ ファクトリー＞

最後に見学をしたファクトリーで、オフィス家具工場としては珍しい、工房を備えた木製家具工場として稼動を開始されました。多様化するお客様のニーズを具現化するための工房と、高い生産効率を実現するセル生産方式。多品種少量生産型の新しいタイプの木製家具工場です。

高価な加工設備を導入し、顧客ニーズにこたえているそうです。



木製品加工用機械



参加者集合写真

以上、長時間にわたり見学をさせていただきました。

また、ご対応いただいた方々には細やかなご対応賜り大変お世話になりました。

充実した時間を過ごせ、参加者の皆さんにも参考となるところが多い見学会が実施できました。

プラス株式会社 前橋工場の皆様、本見学会のご調整をいただいた株式会社 板通様に感謝します。

当組合として継続的に見学会等情報発信をして参りますので、ご支援・ご鞭撻賜りますようお願いし、見学会のレポートといたします。

以上

日本パウダーコーティング協同組合 事務局 立花敏行

表紙解説

表紙絵画：小島輝夫

表紙写真

「霧氷の三ッ岩岳」

通い慣れている北八ヶ岳の冬山に登った。

翌日は冬晴れとなり、三ッ岩岳近辺を撮影した。昨夜の猛吹雪の後なので、素晴らしい樹氷が全てを覆い見事な雪景色だった。

パウダーコーティング

ISSN 1346-6739

2026 年 1 月 31 日 Vol.26 No.1

発行所：日本パウダーコーティング協同組合(JAPCA)

東京都港区芝 5-31-16 YCC ビル 9F

TEL: 03-3451-8555 FAX: 03-3451-9155

URL: <http://www.powder-coating.or.jp>

制 作：パウダーコーティング誌 制作部

©2026 日本パウダーコーティング協同組合

本誌に記載されたすべての記事内容について、日本パウダーコーティング協同組合の許可なく転載・複写することを禁じる。

パウダーコーティング ISSN 1346-6739
二〇二六年一月三十一日 Vol.26 No.1
定価 二〇〇〇円

発行：日本パウダーコーティング協同組合（JAPCA）
東京都港区芝五・三・一六 YCCビル
制作：パウダーコーティング誌制作部